

施設便りに加え、シニアライフを豊かにする地域の情報をお届け

みかんの丘だより

第60号

河内福祉村

発行 社会福祉法人 陽光「みかんの丘」

- ・特別養護老人ホーム・デイサービスセンター
- ・居宅介護支援事業所・ショートステイ
- ・地域交流センター「夢見館」



2025年1月

HAPPY
NEW YEAR

2025



年頭の御挨拶



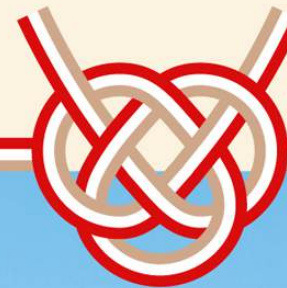
みかんの丘
施設長
池尻 久美子

新年明けましてあおめでとございます。
年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
当法人は、2005年4月に開設し、これまで、ご利用者様、ご家族様そして地域の皆様、地域の事業所等関係各位等、様々な方々に支えられ時を刻み、今年で20年を迎えます。これもひとえに、皆様のご支援、ご尽力のおかげと、心より感謝申し上げます。
さて、今年は「巳年」。干支では、「乙巳（きのとみ）」の年にあたります。「乙」は成長途中の状態を表し、「巳」は変化や再生を象徴する干支です。
乙巳の年は、新しい流れが生まれ、古い価値観やルールが終わる転換期をへて、大きな変化や再生を繰り返しながら発展していく年とされています。
介護の世界でも、DX（デジタルトランスフォーメーション）化の波が、一気に押し寄せてきており、DXの進化は、私たちの仕事に明らかに大きな変化をもたらしています。当法人でも、勤怠システム、介護記録システム（音声入力）、インカム等導入にて、更なる業務改善につなげていこうと動いております。
乙巳の年、様々な努力を重ね、組織としても20年を迎えるにあたり、DX化について戸惑うことも多い中、私たちなりのペースでDX化を進めながら、着実に組織として成長しているように、力強く歩み続けていきたいと思っておりますので、これからも引き続きご理解、ご協力をお願いいたします。
末筆ながら、皆様のご多幸とご健康を祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。

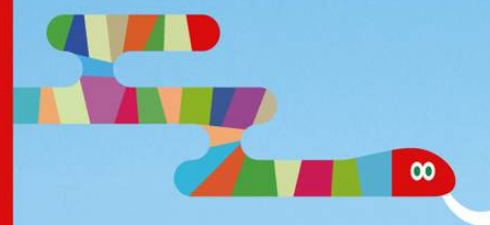
令和7年元旦

HAPPY NEW YEAR

MIKAN NO OKA



ココロもカラダも
元気になれる場所
地域のみなさまに支えられ
みかんの丘も開設二十周年目
本年も明るく元気に頑張ります



新入職員のご紹介

皆様、これからよろしく
お願い致します



特別養護老人ホームみかんの丘
介護職員 藤本さん

9月に入社しました、ブランクがありますが、知識と技術を身に着け頑張っていきたいと思っております。



特別養護老人ホームみかんの丘
介護福祉士 西山さん

これまでの経験を活かしながら「明るく・元気よく・フレッシュ」に頑張っていきたいと思っております。



社会福祉法人 陽光では、それぞれの施設でInstagramを始めました。日々の活動や情報を発信しております！フォローをお願い致します。



特別養護老人ホーム
みかんの丘



居宅介護支援事業所
みかんの丘



デイサービスセンター
みかんの丘



デイサービスセンター
みかんの花



デイサービスセンター
みかんの木

お問合せは『社会福祉法人 陽光 みかんの丘』まで
〒861-5348 熊本市西区河内町白浜字堀切 1440-2

TEL 096-278-4055 FAX 096-278-4056 担当 / 山田



第 19 回「みかんの丘・みかんの花」

“MIKAN NO OKA”
Research Presentation.

研究発表大会

第 19 回となる研究発表会が行われました。研究発表とは、日々の成果を発揮する場であり、取り組みがどこにどう活かされているのかを報告する重要な場となっています。この研究が困っている方の参考になることが今後のみかんの丘の成長に繋がると考えています。「介護の模範」になる施設を目指すため、チーム一丸で作りあげた研究結果です。今回も各事業所から複数題の発表が行われました。その研究発表の中から一部をご紹介します。

【SNSを活用した自立支援介護の発信】

特養 C チーム

【はじめに】

本施設では 10 年前から自立支援介護の実践を取り組み、これまでに数多くの成果を出すことができた。また、その成果を研究大会にて報告し、取り組みに興味をもった他事業所等が施設見学に来るなど認知度の向上が伺えていた。しかし、2020 年 1 月以降、新型コロナウイルスの影響は大きく、対面での発信する機会が急激に減少した。そんな状況の中、多くの方に自立支援介護の共有する新たなツールとして、Social Networking Service(以下、SNS)による発信が必要と考えた。様々な SNS が存在する中で Instant telegram(以下、インスタ)は写真や動画をメインとしており本施設での取り組みを発信するのに有益と考えた。

【目的】

インスタのインサイト分析を使用し、「保存率」「ホーム率」「プロフィール移行率」「フォロワー転換率」を算出することが出来る。このデータを有効に利用し本施設の認知度やブランド力の向上につなげたい。

【方法】

本施設が既存で使用しているインスタアカウントとは別に「自立支援介護専用アカウント」を作成する。研究対象者を 2 名抽出しインスタに 2 回／月のリール動画を投稿する。分析方法としてインサイト分析の“保存数”に着目した「保存率」「ホーム率」「プロフィール移行率」「フォロワー転換率」を算出する。評価を実施する間隔を設け投稿後翌日と 1 週間後の平均値を各々算出し分析を行う。そうすることにより、投稿したリール動画にどれほどの拡散力があるのかを分析・確認することが可能となり、認知度を向上させていく上での足がかりになると期待される。

【結果】

インサイト分析の平均値は「フォロワー転換率」のみ有効な結果となった。その他、「保存率」「プロフィール移行率」においては、翌日、1 週間後評価ともに 0% という結果となり有用な結果とは至らなかった。

	フォロワー 転換率	保存率
翌日評価	1.81%	0.058%
1 週間後	9.8%	0.037%

【考察】

本研究では、インスタにおける“保存数”に着目し増やすことにより、コンテンツの価値や認知度を高くできると考えた。また、高い保存率はフォロワーの関心を引くことを意味し、エンゲージメントやリーチ向上につながると考えた。ただ、上記の結果からも著しい結果を残す事は出来なかった。要因としては、視聴者にとって関心や魅力が低い可能性が示唆される。コンテンツがターゲットオーディエンスに響いていない可能性がある。また、「保存率」「フォロワー転換率」はやや上昇しているが、全体的に観測されるデータが低い。このことは、コンテンツが知らせたい情報を広める事には成功していない一方で、視聴者の中には興味を持つ人が一定数存在することを示唆している。今後の展望としては、インサイト分析を継続し、コンテンツの改善やエンゲージメントの促進に取り組み認知度・ブランド力向上につなげていきたい。最後に計画書作成後に投稿内容を吟味し動画撮影等を進めたが、研究対象者が研究期間にコロナ罹患により、動画撮影と投稿が遅くなり研究データ数が不十分な形となった。今後も自立支援介護における SNS 発信は継続する。

【カンファレンスの有効性】

デイサービスみかんの丘

【はじめに】

昨年度の研究ではカンファレンスの実践による在宅生活の継続について取り組み、研究を行ったが、思うような結果が得られなかった。その取り組みの中で見えてきた課題や改善点を元に、成果が得られるような有効なカンファレンスの方法を模索しつつ、昨年の研究をブラッシュアップしていきたいと考えた。

【目的】

カンファレンスを有効的に実施するための方法を探る。そのなかで、在宅生活の様子が見えにくい利用者には在宅での課題を抽出し、そこにコミットしたケアをデイサービスの中で提供するとともに、家族やケアマネジャーと情報を共有することにより早期に課題に対してアプローチすることで状態の深刻化を防ぎ、結果的に入院者を減らしていくことを目的とする。

【対象】

3 か月に 1 度のモニタリング月に合わせ、その月のモニタリング対象者の中から、元気スコアシートを用い、入院リスクを点数化した評価を元に、入院リスクが中～高の判定の方を対象とする。

【方法】

昨年の研究の考察から、「課題の抽出」「周知・共有」「実行」が不十分であった。そこを改善するために、元気スコアシートの各項目を元に 3 か月に 1 度の再評価を行い、浮き上がった課題に対し具体的なアクションを定め(抽出)、現場・本人・ケアマネ・家族で共有することで共通の課題と捉え一体的なアプローチを目指す(共有)。直接的な協力を依頼する場合は電話連絡を基本とする。そこから決まったアクションを継続的に実施できているかをチェックシート化して、チェックを行う事で確実にアクションを実施できているかを視覚的に把握できるように仕組化する(実行)。

【結果】

毎週木曜日、16:30 から 2 名ずつカンファレンスを行った。

くお願ひします。

令和七年 元旦

令和 7 年は戦後 80 年を迎えます。今の平和な日本があるのは、戦争で亡くなった方々の思いがあると思います。この平和な状況がいつまでも続けば良いと思います。最後になりますが、本年も社会福祉法人陽光をよろしくお願ひします。

話題は変わりまして、スポーツにおいてはドジャースの大谷翔平選手が前人未到の 54 本塁打、59 盗塁と大記録を残し、毎日のニュースを賑わせて、連日テレビで観戦された方もいらっしゃると思います。来年以降も活躍が非常に楽しみです。

さて介護保険が開始してから 25 年目を迎えようとしています。以前はお世話と思われていた介護ですが、近年は自立支援という言葉もあるように利用者様の自立へ向けての支援が必要になります。当法人としても、利用者様の出来ることを増やしていくことで利用者様一人ひとりが活動的になるように取り組んでいきたいと思っています。

新年あけましておめでとーございます。

令和 6 年は皆様にとつて、どんな年になりましたか。

令和 6 年は元日に能登半島の大地震が発生し、甚大な被害があり、現在も避難生活を送られている方がいらっしゃると思います。その後の全国的に大雨等の自然災害が各地で発生した 1 年となりました。心より災害からの復興をお祈り申し上げます。



社会福祉法人 陽光
理事長
上野 歩

年頭のごあいさつ

New Year Greetings

【特養における有酸素運動の有用性】

特養 A チーム

【はじめに】

日本では高齢化により、生活習慣病に関わる疾患で入院・死亡する割合も増加している。それらの予防に食事療法・薬物療法・運動療法が挙げられるが、特別養護老人ホームでは要介護状態が重く自力歩行困難な高齢者は運動療法(有酸素運動)実施が困難。病院で導入している有酸素運動の医療器具も特養利用者では取り扱いも難しく、高価で数台の導入も難しい。そのため安価で購入でき、特養利用者でも実施が出来る健康器具で利用者の生活習慣病・サルコペニア予防、その他の利点が得られるかと考え本研究に至る。

【目的】

・特養利用者が有酸素運動で ADL・全身状態・健康維持ができ、今年度の介護報酬改定にて算定要件が難しくなった ADL 維持等加算(Ⅱ)の要件が満たされ入院・退所の減少を図る。

【方法】

評価期間令和 6 年 5 月～同年 9 月、特養入所者 19 名を対象。各週 3 回 3 分から 9 分の間で健康器具を使用し、ADL 評価、体調を記録し、動画撮影も行う。効果判定は研究開始前の対象者の全身状態(浮腫・ADL)と最終評価時の評価で改善・維持・低下されているか、ADL 維持等加算の ADL 利得値を計算し算定要件を満たしているか、入院・退所者数の前年度と比較(評価期間内)などで行う。

【結果】

入院・看取り退所者比較(5 月～9 月)

	R4	R5	R6
NCDs・骨折	3 名	3 名	0 名
看取り	6 名	7 名	4 名
その他	6 名	4 名	8 名
総入院・退所数	15 名	14 名	12 名

施設全体での入院・退所者数は 12 名(内対象者 5 名で 2 名退所)であったが全員が生活習慣病以外の疾患であった。入所者全体と比較しても令和 4 年度は 20%、令和 5 年度は 15% もこの同じ評価期間での入院・看取り退所数が減少した。

ADL 利得値(最終評価時の不在者を除く)

	維持	向上	低下
対象者	10 名	5 名	2 名

ADL 利得値は 4.7 が見込まれ現状 ADL 維持等加算(Ⅱ)の算定要件が満たされる。また、施設全体で ADL が向上した利用者のうち半数が研究対象者であった。維持群の中でも介助量の軽減、歩行距離の延長、歩行時の歩幅増大などみられ、低下した 2 名に関しても本人・家族の意向による下剤の使用、移乗の全介助での ADL 低下であった。浮腫は明らかな結果はでなかった。

浮腫(周径・触診)※最終評価時

	変化なし	軽減	増悪
対象者	12 名	3 名	2 名

【考察】

結果から ADL 向上がみられた群だけではなく ADL の点数は変わらないが維持群にも介助量の軽減が認められた。また、低下群においても本人・家族の意向によるものであったため、ほぼ全員が ADL 向上・維持、健康維持が図れ、NCDs・骨折入院が防止できたと考えられる。そのほかの ADL 向上の要因として維持・低下群と比較し、取り組み以外で離床時間・食事摂取量の増加・毎日立位歩行訓練の機会が設けられていることが多く、有酸素運動だけで健康維持・入院防止は図れるが、その人に合った日常ケアを見直すことでさらに良い結果に繋がると思う。